

文部科学省 大学間連携共同教育推進事業
「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」
第16回 ITを活用した教育センター会議 議事録

【日時】平成26年2月12日（水） 14時00分から15時00分

【場所】以下の5拠点によるスカイプ会議：岩手医科大学：城教授室、北海道医療大学：越野教授室、昭和大学：1号館502号室、金沢電子出版株式会社、株式会社ピコラボ

【出席者】城教授（岩手医科大学）、越野教授、豊下講師（北海道医療大学）弘中教授、美島教授、片岡教授、乾事務員（昭和大学）、佐藤様（金沢電子出版株式会社）、鈴木様（株式会社ピコラボ）

議事内容(案)

- 1) 第15回 ITを活用した教育センター議事録内容について確認があった。
- 2) 3/27（木）第4回 ITを活用した教育センターWS
 - (1) 3/27（木）9:00～大学教職員セッション「ITを活用した授業の準備と運用について」
 - ① e-ラーニング教材作成の担当業務について（教務課、教員、IT 業者）確認があった。＜資料1＞
 - ② e-ラーニング利用授業の実施要項（案）について佐藤様より説明があった。準備に関しては金沢電子出版佐藤様にお問い合わせ。＜資料2＞
 - (2) 3/26（水）17:30～ e-ラーニング教材作成セミナーについて準備に関しては金沢電子出版佐藤様にお問い合わせ。詳細に関しては別途打合せを行った。
- 3) 学生アンケートについて
平成26年度よりITを活用して無記名で実施する。
- 4) 第4回 ITを活用した教育センターWS 各WGの報告担当者について
印象記と報告を事務局より[主に大学教員を中心として](#)割り当てる。
- 5) VPについて
 - (1) 第1回 VPに関するSkypeミーティング(WG4)の報告（ピコラボ）＜資料3＞
 - (2) WG4 想定問答集とVP教材概要について説明があった。＜資料4, 5＞
 - (3) WG4とWG3で同じ患者設定にすることで、学生に急性期から回復期のチーム医療の流れが理解できるように工夫する。
 - (4) WG2 進捗について報告があった。現在不整脈と糖尿病のVPを作成中である。e-ラーニング教材は今月中にビデオ含むコンテンツができあがる予定。
 - (5) WG1 進捗について報告があった。各大学にe-learning教材はほぼできており、MCQ、○×の見直しを行なって次回WSに備えている。口腔乾燥症3症例を抽出し、各大学が担当を持って問診風景を撮影する事に関しては、5月迄に行なう予定である。VPは3体作成する予定である。
 - (6) VPを用いた演習の所要時間について質問があり、ピコラボより回答があった。
 - ① 医療面接のみ・・・20～30分、診断や追加検査・・・40～60分。
 - ② WG2の場合は初めて使う学生で30分程度。
 - ③ VP演習を同時に実施できる人数は、今までの実績では40～50人である。 100

人同時に実施した実績がないため、本番前にトライアルの開催が必要である。担当は株式会社ピコラボとする。

(7) 授業日程について説明があった。

① 岩手医科大学：D3：9/22、D4：オリエンテーション9/5、トライアル 9/30、10/1より授業開始予定。＜資料 6＞

② 北海道医療大学：4/10 に 1 回目の授業予定。去年 3 年生用に WG4 で作成した教材を使用する。D5 は調整中。臨床実習（高齢者歯科）の中で行なう。

(8) シラバス科目名は文科省の事業取組名を入れなくても構わないが、連携事業取組で作成した教材を使用している旨副題等に入れる。

6) 3 年生と 4 年生の授業の連続性について以下を依頼した。

(1) 事前学習で復習させる。

(2) 授業当日は事前学習内容に関連する小テスト等を行なう。

(3) 授業の最後にはまとめテスト（仮称）を実施して授業のポイント、到達度が測れるような工夫をする。

(4) 3 年生のコンテンツにも事前学習課題を入れて欲しい旨お願いがあった。

7) 昭和大学 D3 チーム医療と口腔医学 I、D4 チーム医療と口腔医学 II シラバスについて説明があった。＜資料 7＞

8) 歯科医学教育学会発表については片岡教授よりメールで連絡する。

以上

	IT業者	教務	教員
授業一か月前		学生・教員・ダミー学生の登録作業	
授業一週間前			事前学習の設定
授業前日			
授業当日			事前学習提出状況の確認 事前学習に対する復習課題の設定 授業課題 授業の到達度、授業効果の明確化 アンケート集計

e ラーニング利用授業の実施要項（案）

2014年2月12日作成
金沢電子出版株式会社

下記について、「いつ」「だれが」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」実施するのか、明確にしていく必要があります。

1. 科目開講前の作業
 - (ア)使用教室や機材の確認
 - ① 教室のネットワーク
 - ② 使用パソコン
 - (イ)コースの準備
 - ① コンテンツの登録，作成，調整
 - ② コースの設定
 - (ウ)ユーザー登録
 - ① 学生、教員、ダミー学生など
2. 各回の授業前の作業
 - (ア)コンテンツの確認，調整
 - ① 前回の授業を終えての調整
 - (イ)事前学習
 - ① 学習課題の作成，出題
 - ② 学習課題の提出状況確認
 - ③ 事前学習に対する復習課題の設定，出題
 - (ウ)
3. 各回の授業中の作業
 - (ア)授業コンテンツの公開
 - (イ)学習状況の確認
4. 各回の授業後の作業
 - (ア)授業アンケートの集計，分析
 - (イ)授業の到達度、授業効果の明確化
5. 科目閉講後の作業
 - (ア)学習履歴，成績の分析，報告
 - (イ)実施コースの報告
 - (ウ)

文部科学省 大学間連携共同教育推進事業
「IT を活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」
第 1 回 VP に関する Skype ミーティング (WG4) 議事録

【日 時】平成 26 年 2 月 4 日 (火) 15 時～16 時

【場 所】以下の 3 拠点による Skype 会議

北海道医療大学：越野教授室

昭和大学：1 号館 502 号室、歯科補綴学教室カンファレンスルーム

【出席者】越野教授（北海道医療大学）、菅沼教授，乾事務員（昭和大学）

八木様，鈴木様（株式会社ピコラボ）

議 事 内 容

1) VP 症例作成の進め方について

(1) 症例作成の進め方と 3 月までのスケジュールについて，資料「平成 26 年 3 月ワークショップに向けて」に基づいて株式会社ピコラボ鈴木より説明がなされた。

- 作業は 3 つの STEP で実施
- STEP1: 授業の構成や VP の利用形態，VP 症例の概要の検討
- STEP2: VP 症例の内容の詳細化と試作
- STEP3: 試作した VP の動作試験と想定問答の充実化
- 3 月ワークショップまでに少なくとも STEP2 までを実施することを確認した

2) 教材の構成について

(1) WG4 で想定している教材の構成について，資料「グループ 4」に基づいて越野先生よりご説明いただいた。

- 脳梗塞で入院し，退院して間もない患者
- 嚥下障害などがあり，脳梗塞の後遺症や体力低下などが見られる

(2) 授業の構成のポイントを越野先生よりご説明いただいた。

- 学生には，VP での医療面接を通じて患者の所見を把握し知識整理をさせたい
- 多職種連携の教育の一環として医療面接後に回診書の作成を課したい
- 穴埋め形式の問題などを想定している
- 以上のトータルで 80～90 分に収まる内容とする

(3) 授業の構成やシステム利用について協議した。

- 患者所見の把握は VP システムを用いた医療面接にて行う
- 回診書の作成は e-Learning の方が好適である
- 追加検査や診断・治療等の選択については VP を利用することも可能

3) 教材の作成に向けた作業について

(1) VP 症例の制作に向けてご用意いただく情報について，資料「VP 症例のシナリオ例」に基づいて菅沼先生よりご説明いただいた。

- (2) 今後の VP 症例制作に向けての作業について協議した。
- まずは WG4 にて VP 症例の想定問答集を作成して頂くこととなった
 - 写真については口腔内写真や X 線写真の他、各種追加検査の写真なども揃っていることをご確認いただいた
 - 想定問答集の素案が出来たところで、写真と合わせてご提供いただくこととした
- (3) 想定問答集の詳細度について越野先生よりご質問いただいた
- 以下の点について菅沼先生および鈴木よりご説明した
 - 資料「VP 症例のシナリオ例」にある想定問答集は、STEP1 で症例のシナリオの全貌を把握するためのものであり簡易なものでよい
 - STEP2 以降で問答集の具体化と詳細化を行っていく
 - 共通する質問はベースとなる症例テンプレートに既に用意されているものもあるが、想定問答集の作成のさいには既存の QA には捉われずに考えていただいた方がよい
- 4) 授業での VP 症例の使用形態について
- (1) 授業での VP 症例の使用形態について、資料「VP システムを利用した授業の構成について」に基づいて、菅沼先生および鈴木からご説明した
- VP 症例の利用時間の目安について
 - 医療面接対話のみで 20 分程度（初めて利用する学生は 30 分程度）
 - フルバージョン症例で 40 分程度（初めての場合は 60 分程度）
 - 授業時間中に実施する症例と自宅での復習用の症例を用意する形態も考えられる
 - 授業用は医療面ないしは口腔内外の検査の部分までとしフィードバックは講義の中で行っていく形態も考えられる
 - 復習用は追加検査や診断・治療の選択なども含んだフルバージョンでフィードバックも表示するという事も可能
- 5) 教材作成の作業の連絡先について
- (1) 授業を構成する教材の作成の際に VP 症例の作成の他に e-Learning コンテンツの作成も必要となる事から、これらの依頼先について越野先生よりご質問いただいた
- VP 症例や e-Learning に関わらず、作業の依頼は連携事業事務局にご連絡いただくことに決定した
 - 次回の教育センター会議で各 WG にもその旨をお願いすることとした

以上

地域における慢性期のチーム医療を学ぶ

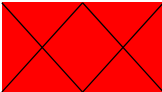
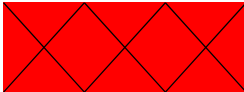
- 年齢：70歳
- 性別：男性
- 主訴：入れ歯が合わない。
- 現病歴：一か月前より、食事中に義歯が脱離してることが気になり出し来院した。
- 既往歴：脳梗塞、高血圧症
- 内服薬：ワーファリン、ニューロタン

口腔内検査

症例写真



口腔内検査

	7	6		1	2	3
打診	-	-		-	-	-
圧痛	-	-		-	-	-
動揺度	3	3		2	2	2
歯周組織検査	4	3		4	3	2
PCR						

口腔外検査

開口量 : 40mm
開口路 : ストレート
咬筋の触診 : 圧痛－
側頭筋の触診 : 圧痛－
顎関節の触診 : 圧痛－
唾液腺 : 圧痛－、腫脹－
リンパ節 : 圧痛－、腫脹－
頬部圧痛圧痛 : ー
オトガイ部圧痛 : ー

追加検査

口腔内エックス線検査



現義歯の状態








適合の検査



咬合接触検査

左右臼歯部の咬合は、ほぼバランスが取れており、偏心運動時の干渉は認められない。

	質問事項	別な聞き方	回答	
導入	こんにちは。 〇〇さんですね。 お名前を教えてください。 本日担当させていただきます〇〇です。 治療を始める前にお話を聞かせてください。 今日はどうされましたか。	はじめまして。	こんにちは。 はい。 〇〇です。 よろしくお願いします。 はい。 入れ歯が合わないんです。	
主訴				
現病歴	上の入れ歯ですか。 いつ頃から合わないですか。 どんなふうにお困りですか。 痛みはありますか。 お話しはしにくいですか。 お食事はできますか。 いつ作った入れ歯ですか。 どこで作りましたか。	下の入れ歯ですか。 どちらの入れ歯ですか。 一番困っていることはなんですか。 発音はどうか。	上の入れ歯です。 1か月前から気になり出しました。 食事中に入れ歯がはずれてしまい、うまく噛むことができません。 ありません。 会話や発音は問題ありません。 市販の入れ歯安定剤を使ってなんとか食べられています。 4年前に作りました。 近所の歯科医院です。 6か月前に脳梗塞で入院しました。 3か月間です。 3か月前です。 麻痺はほとんど残っていません。 以前より痩せましたが、まあまあです。 500mほどでしょうか。毎日散歩をしていますが、病気をする前回は歩けません。 娘が付き添ってきました。 はい。飲み込めます。 いいえ。 高めです。 上が140で下が90です。 はい。週に一度通っています。 血が止まりにくい薬と血圧の薬を飲んでます。 わかりません。 入院中はあまり歯磨きができませんでした。今は一日2回磨いています。 以前は吸っていました。入院してからは吸っていません。 たまに飲みます。	
口腔内既往歴	どこで作りましたか。 これまでにかかったことのある病気はありますか。 どのくらい入院していましたか。 いつ退院しましたか。 麻痺はありますか。 最近の体調はいかがですか。 どのくらい歩けますか。 お一人で来院されたんですか。 うまく飲み込めますか。 よくむせたりしますか。 血圧はどうか。 血圧はいつですか。 まだ通院していますか。 今飲んでいる薬はありますか。 薬の名前はわかりますか。 歯磨きはしていますか。 タバコは吸いますか。 お酒は飲みますか。	後遺症はありますか。 その後の経過はどうか。 一人で来ましたか。		
全身既往歴				
薬剤				
生活歴	アレルギーはありますか。 歯の治療経験はありますか。 麻酔をしたことはありますか。 麻酔をして、気分が悪くなったりしたことがありますか。 血が止まりにくいですか。	1日何回歯を磨きますか。 食べ物にアレルギーはありますか。 薬にアレルギーはありますか。	はい。飲み込めます。 いいえ。 高めです。 上が140で下が90です。 はい。週に一度通っています。 血が止まりにくい薬と血圧の薬を飲んでます。 わかりません。 入院中はあまり歯磨きができませんでした。今は一日2回磨いています。 以前は吸っていました。入院してからは吸っていません。 たまに飲みます。 ありません。 あります。 あります。 ありません。 はい。歯茎からじわじわと血がでていることがあります。	WG3要確認！ WG3要確認！

	7	6		1	2	3
打診	-	-		-	-	-
圧痛	-	-		-	-	-
動揺度	3	3		2	2	2
歯周組織検査	4	3		4	3	2
PCR						

社会と歯科医療・チーム医療（大学間連携 IT 教育）（3 年）

コーディネーター：口腔顎顔面再建学講座（歯科麻酔学分野） 城 茂治教授

第3学年 前期

前期 講義 10.5 時間 演習 1.5 時間

一般目標（講義）

我が国では超高齢社会の到来により、様々な基礎疾患を有し、薬を服用している患者が、歯科を受診する率が高まっている。また一般医科病棟でも、当該の病気に加えて、口腔機能管理の重要性が増している。さらに、介護が必要な高齢者の増加と共に呼吸器感染症の予防や摂食嚥下機能の維持・回復のための口腔ケア等の重要性が高まっている。

そこで国民の健康に貢献できるオーラルフィジシャン（口腔科医）になるために、医療の仕組みと高齢者に多くみられる全身疾患、口腔症状および多職種連携のチーム医療を理解し、口腔症状への対応の基本を E-Learning（三大学連携 IT 教育システム）を通して身につける。

講義日程

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
9月22日（月） 4限	城茂治教授 （歯科麻酔学 分野）	オリエンテーション 三大学連携 IT 教育の目的、使用設備について理解する。	1. 三大学連携 IT 教育で学ぶ目標を説明する。 2. PC を用いて必要な情報を得る。 3. 電子ポートフォリオを作成する。
10月2日（木） 1限	城茂治教授 （歯科麻酔学 分野）	トライアル 三大学連携 IT 教育システムについて習熟する。	1. IT システムに接続できる。 2. IT システムを利用できる。 3. 電子ポートフォリオを作成する。 4. IT システムのトラブルに対処する。 5. IT システムの使用規約を遵守する。
10月2日（木） 2限	岸 光男准教授 （予防歯科学分 野）	高齢社会と歯科医療 1 日本の将来人口推計等から今後の日本の医療・歯科医療体系を考える。	1. 高齢化社会について説明する。 2. 高齢化社会と歯科医療について概説する。 3. 高齢者に多く見られる基礎疾患について列挙する。
10月3日（金） 1限	藤村朗教授 （機能形態学 分野） 須和部京介 （歯周療法学 分野）	高齢化とチーム医療 1 脳梗塞を合併した歯科患者を通して医療・歯科医療の仕組みと連携を学ぶ。	1. 脳梗塞発症から症状の回復までの一連の医療体制を概説する。 2. 医療・歯科医療の連携と病院におけるチーム医療の基本を説明する。

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
10月3日(金) 2限	藤村朗教授 (機能形態学 分野) 須和部京介 (歯周療法学 分野)	高齢社会とチーム医療 2 脳梗塞を合併した歯科患者を通して歯科が担う役割を学ぶ。	1. 脳梗塞の症状と口腔の機能に対する影響を説明する。 2. 障害を持つ患者の口腔ケアの目的と方法を説明する。
10月27日(月) 1限	城 茂治教授(歯 科麻酔学分野) 近藤尚知教授 (補綴・インブ ラント学講座)	高齢社会と歯科医療 2 高齢者の身体的、心理的特徴を理解し、医療面接時の注意点について学ぶ。	1. 医療面接の目的と方法を説明する。 2. 主訴、既往歴、現病歴の定義を説明する。 3. 医療情報の収集法を説明する。 4. 基礎疾患を有する高齢者での医療面接での注意点を列挙する。 5. SOAP について説明する。
10月28日(火) 1限	小林琢也講師 (補綴・インブ ラント学講座) 熊谷章子助教 (口腔外科学分 野)	高齢者の口腔疾患 高齢者に多く見られる口腔疾患(特に口腔乾燥症)について学ぶ。	1. 唾液の分泌に影響を与える因子について説明する。 2. 口腔乾燥症の口腔内所見について説明する。 3. 口腔乾燥症と基礎疾患との関連について説明する。
6月28日(火) 2限	熊谷章子助教 (口腔外科学分 野) 小林琢也講師 (補綴・インブ ラント学講座)	高齢者の口腔疾患 高齢者に多く見られる口腔疾患(特に口腔乾燥症)の口腔審査法と検査について学ぶ。	1. 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、嚥下機能測定、および咬合力測定を実施する。 2. 検査の結果を評価する。 3. 異常の原因や原疾患を概説する。

成績評価方法

レポート (60%) ポートフォリオ・E-Learning (40%)

オフィスアワー

氏 名	方式	曜日	時間帯	備 考
城 茂治	B-i	月～金	随時	不在の時は教室員に伝言のこと。メールも可。
近藤尚知	B-i	月～金	随時	不在の時は教室員に伝言のこと。メールも可。
藤村 朗	B-i	月～金	随時	不在の時は教室員に伝言のこと。メールも可。
小林琢也	B-i	月～金	随時	不在の時は教室員に伝言のこと。メールも可。
熊谷章子	B-i	月～金	随時	不在の時は教室員に伝言のこと。メールも可。
須和部京介	B-i	月～金	随時	不在の時は教室員に伝言のこと。メールも可。

社会と歯科医療・チーム医療（大学間連携 IT 教育）（4 年）

コーディネーター：口腔顎顔面再建学講座（歯科麻酔学分野） 城 茂治教授

第3学年 前期

前期 講義 10.5 時間 演習 1.5 時間

一般目標（講義）

我が国では超高齢社会の到来により、様々な基礎疾患を有し、薬を服用している患者が、歯科を受診する率が高まっている。また一般医科病棟でも、当該の病気に加えて、口腔機能管理の重要性が増している。さらに、介護が必要な高齢者の増加と共に呼吸器感染症の予防や摂食嚥下機能の維持・回復のための口腔ケア等の重要性が高まっている。

そこで国民の健康に貢献できるオーラルフィジシャン（口腔科医）になるために、医療の仕組みと高齢者に多くみられる全身疾患、口腔症状および多職種連携のチーム医療を理解し、口腔症状への対応の基本を E-Learning（三大学連携 IT 教育システム）を通して修得する。

講義日程

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
9月12日（金） 4限	城茂治教授 （歯科麻酔学 分野）	オリエンテーション 三大学連携 IT 教育の目的、使用設備について理解する。	1. 三大学連携 IT 教育で学ぶ目標を説明する。 2. PC を用いて必要な情報を得る。 3. 電子ポートフォリオを作成する。
9月25日（木） 4限	城茂治教授 （歯科麻酔学 分野）	トライアル 三大学連携 IT 教育システムについて習熟する。	1. IT システムに接続できる。 2. IT システムを利用できる。 3. 電子ポートフォリオを作成する。 4. IT システムのトラブルに対処する。 5. IT システムの使用規約を遵守する。
10月2日（木） 1限	城茂治教授 （歯科麻酔学 分野）	高齢社会とチーム医療 1 高齢社会でのチーム医療を行うに当たり、全身的な知識がどのように必要かを理解する。	1. 高齢者に多く見られる基礎疾患を列挙する。 2. 基礎疾患を有する患者の歯科診療時における注意点を挙げる。 3. 口腔内科的疾患について概説する。 4. 脳梗塞発症から症状の回復までの一連の医療体制を概説する。

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
10月2日(木) 2限	藤村 朗 教授 (機能形態学分野) 須和部京介助 教(歯周療法学 分野)	高齢社会とチーム医療 2 脳梗塞などの疾患で入院した高齢者に対するチーム医療での歯科の関わりについて学び、急性期の歯科医師の役割を理解する。	1. 脳卒中の急性期症状と全身および口腔の機能について説明する。 2. 急性期のチーム医療体制を説明する。 3. 病院における急性期の医療・歯科の連携医療を説明する。 4. 病院における急性期患者に対する口腔ケアの実施について説明する。
10月8日(水) 3限	藤村 朗 教授 (機能形態学分野) 須和部京介 (歯周療法学 分野)	高齢社会とチーム医療 3 脳梗塞などの疾患を合併した高齢者に対するチーム医療での歯科の関わりについて学び、慢性期の歯科医師の役割を理解する。	1. 脳卒中の慢性期症状と全身および口腔の機能について説明する。 2. 回復期のチーム医療体制を説明する。 3. 医療・歯科医療の連携と在宅におけるチーム医療の基本を説明する。 4. 在宅での慢性期疾患を合併した患者に対する口腔ケアの実施について説明する。
10月8日(水) 4限	城 茂治教授(歯 科麻酔学分野) 近藤尚知教授 (補綴・インプ ラント学講座)	高齢社会と歯科医療 1 高齢者で多く見られる基礎的疾患を理解し、歯科治療時の注意点について学ぶ。	1. 高齢者で多く見られる基礎疾患を列挙する。 2. 糖尿病について説明する。 3. 高血圧症について説明する。 4. 糖尿病を合併する高齢者の歯科治療中の注意点を列挙する。 5. 高血圧症を合併する高齢者の歯科治療中の注意点を列挙する。
10月10日(火) 4限	城 茂治教授(歯 科麻酔学分野) 近藤尚知教授 (補綴・インプ ラント学講座)	高齢社会と歯科医療 2 高齢者で多く見られる基礎的疾患を理解し、歯科治療時の注意点について学ぶ。	1. 不整脈について説明する。 2. 心房細動を合併する高齢者の歯科治療中の注意点を列挙する。 3. 抗凝固療法の適応について説明する。 4. 抗凝固療法中の高齢者の歯科治療中の注意点を列挙する。
10月14日(火) 4限	小林琢也講師 (補綴・インプ ラント学講座) 熊谷章子助教 (口腔外科学分 野)	高齢者の口腔疾患 1 口腔乾燥を訴える患者に対する医療面接を学ぶ。	1. 口腔乾燥を訴える患者の医療面接の要点を挙げる。 2. 口腔乾燥を訴える患者の鑑別診断をする。 3. 口腔乾燥症と基礎疾患との関連について説明する。 4. 口腔乾燥症の診断基準を挙げる。 5. 口腔乾燥症の治療法を説明する
10月17日(金) 3限 4限	岸 光男准教授 (予防歯科学分 野) 小林琢也講師 熊谷章子助教 他	高齢者の口腔疾患 2 口腔乾燥症の口腔審査法と検査について学ぶ。	1. 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、嚥下機能測定、および咬合力測定を実施する。 2. 検査の結果を評価する。 3. 検査の結果を説明する。 4. 検査結果から診断する。

成績評価方法

レポート (60%)	ポートフォリオ・E-Learning (40%)
------------	--------------------------

オフィスアワー

氏名	方式	曜日	時間帯	備考
城 茂治	B-i	月～金	随時	不在の時は教室員に伝言のこと。メールも可。
近藤尚知	B-i	月～金	随時	不在の時は教室員に伝言のこと。メールも可。
藤村 朗	B-i	月～金	随時	不在の時は教室員に伝言のこと。メールも可。
岸 光男	B-i	月～金	随時	不在の時は教室員に伝言のこと。メールも可。
小林琢也	B-i	月～金	随時	不在の時は教室員に伝言のこと。メールも可。
熊谷章子	B-i	月～金	随時	不在の時は教室員に伝言のこと。メールも可。
須和部京介	B-i	月～金	随時	不在の時は教室員に伝言のこと。メールも可。

コース：社会と歯科医療・チーム医療

背景：我が国では超高齢社会の到来により、様々な基礎疾患を有し、薬を服用している患者が、歯科を受診する率が高まっている。また一般内科病棟でも、当該の病気に加えて、口腔機能管理の重要性が増している。さらに、介護が必要な高齢者の増加と共に呼吸器感染症の予防や摂食嚥下機能の維持・回復のための口腔ケア等の重要性が高まっている。

一般目標 (GIO)：

国民の健康に貢献できるオーラルフィジシャン（口腔科医）になるために、医療の仕組みを理解し、多職種連携のチーム医療に参加し、特に高齢者にみられることが多い口腔症状と各種全身疾患との関連を理解した上で、口腔のケアプランを立案する能力を獲得する。

D3 チーム医療と口腔医学 I (チーム医療 I)

対象学年：3年生 後期 責任者名：片岡 竜太 授業形式等；e-learning、講義

一般目標 (GIO)：

国民の健康に貢献できるオーラルフィジシャン（口腔科医）になるために、医療の仕組みと高齢者に多くみられる全身疾患、口腔症状および多職種連携のチーム医療を理解し、口腔症状への対応の基本を身につける。

到達目標 (SBO s)：

1. 社会の歯科医療に対するニーズを理解し、社会に必要とされる歯科医師像を考える。
2. 高齢者に多く見られる基礎疾患について概説する。
3. 基礎疾患と歯科診療との関連について概説する。
4. 日本の将来人口推計等から今後の日本の医療・歯科医療体系を考える。
5. 脳梗塞の症状と口腔の機能に対する影響を説明する。
6. 発症から症状の回復までの一連の医療体制を概説する。
7. 医療・歯科医療の連携と病院におけるチーム医療の基本を説明できる。
8. 唾液の分泌に影響を与える因子について説明できる。
9. 口腔乾燥症の口腔内所見について説明できる。
10. 口腔乾燥症と基礎疾患との関連について説明できる。
11. 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、嚥下機能測定、および咬合力測定を実施し、その結果を評価できる。

評価：定期試験(60%) ポートフォリオ・e-learning(40%)

◆全学年を通しての関連ユニット

- 1年 初年次体験実習 歯科医院見学実習 歯学入門
- 2年 福祉と健康（福祉施設実習）
- 3年 ヒトの病気 A （前期：循環器系，神経筋疾患）
 口腔医学 II（10月）病院病棟における看護業務と全身状態の把握、医療面接の基礎
 口腔医学実習 II（9～12月）昭和大学附属病院病棟体験実習
 4 学部連携チーム医療（12月） 学部連携 PBL（テーマ：脳梗塞，パーキンソン病）
- 4年 全身の医療面接とコミュニケーション（基礎疾患を有する模擬患者との医療面接実習）
 チーム医療と口腔医学 II
 ヒトの病気 B
- 5年 全身疾患と口腔内科
 全身管理と医療連携の臨床実習
 学部連携病棟実習
- 6年 学部連携地域医療実習
 学部連携アドバンスト病院実習

回	年月日	曜日	時限	学習項目	学習内容	対象 SBO	担当
1	26.9.16	火	1	社会に求められる歯科 医師像と口腔医学	社会のニーズが大きく変化している。社会に求められる歯科医師像を考え、口腔医学について学ぶ。	1,2,3	片岡
2	26.9.16	火	2	全身がわかる歯科医師 がなぜ必要か？	日本の高齢化率、将来人口推計から今後の日本の社会と医療を考える。高齢者の身体的、心理学的特徴と高頻度に見られる基礎疾患と口腔疾患を学ぶ。ビデオを通じて、歯科診療と全身状態との関連について考える。	1,2,3 4,5,6	弘中
3.4	26.9.30	火	1-2	脳梗塞を発症した患者 から、医療の仕組みを 学ぶ。	脳梗塞を発症し、入院加療の後に、自宅療養中の患者の歯科受診を通して、医療・歯科医療の仕組みと連携を学ぶ。チーム医療の基本（構成メンバーと役割）および歯科が担う口腔のケアの目的を学ぶ。	4,5,6, 7	弘中

回	年月日	曜日	時限	学習項目	学 習 内 容	対象 SBO	担当
5	26.9.30	火	3-4	口腔乾燥症と疾患①	唾液・唾液分泌機能について、基本的事項をe-learningで学ぶ。基礎疾患を有する患者のシナリオを用いて唾液分泌に影響を与える因子とそのメカニズムについて学習する。	8,9,1 0	美島
6	26.10.7	火	1-2	口腔乾燥症と疾患②	全身疾患、全身状態、服薬、精神状態が唾液分泌に及ぼす影響と口腔に生じる変化についてeラーニングやリソース授業で学ぶ。	8,9,1 0	美島
7	26.10.14	火	1-2	口腔診察・検査実習と疾患	唾液分泌能（ガム、サクソンテスト）、口腔乾燥度、細菌数、嚥下機能、および咬合力の測定を学生相互で実施し、結果をカルテに記入する。異常値が得られた場合、原因や原疾患についてe-learningで学ぶ。これらの検査を活用した4年生、5年生の実習についてリソース講義で学ぶ。	8,9,1 0	病 理 , 生 理, 微生

コース：社会と歯科医療・チーム医療

背景：我が国では超高齢社会の到来により、様々な基礎疾患を有し、薬を服用している患者が、歯科を受診する率が高まっている。また一般内科病棟でも、当該の病気に加えて、口腔機能管理の重要性が増している。さらに、介護が必要な高齢者の増加と共に呼吸器感染症の予防や摂食嚥下機能の維持・回復のための口腔ケア等の重要性が高まっている。

一般目標 (GIO)：

国民の健康に貢献できるオーラルフィジシャン（口腔科医）になるために、医療の仕組みを理解し、特に高齢者にみられることが多い口腔症状と各種全身疾患との関連を理解した上で、口腔のケアプランを立案する能力を獲得する。

D4 チーム医療と口腔医学Ⅱ（チーム医療Ⅱ）

対象学年：4年生 後期 責任者名：片岡 竜太

授業形式等；e-ラーニング、VP、講義、SGD

一般目標 (GIO)：

超高齢社会に対応できるオーラルフィジシャン（口腔科医）になるために、高齢者に多くみられる全身疾患、口腔症状および多職種連携のチーム医療を理解し、口腔症状への対応を身につける。

到達目標 (SBOs)：

1. 高齢者に多く見られる基礎疾患について説明できる。
2. 基礎疾患を有する患者の歯科診療における注意点を説明できる。
3. 口腔内科的疾患について概説できる。
4. 口腔乾燥を訴える患者の鑑別診断を説明できる。
5. 口腔乾燥を訴える患者に対して医療面接で聞く内容を説明できる。
6. 口腔乾燥症の症状と治療法を説明できる。
7. 脳卒中の症状と全身および口腔の機能に対する影響を説明できる。
8. 急性期と回復期のチーム医療体制を説明できる。
9. 医療・歯科医療の連携と病院におけるチーム医療を説明できる。
10. 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、嚥下機能測定、および咬合力測定を実施し、診断につなげることができる
11. 全身疾患を有する患者に対する口腔のケアの実施について説明できる。

評価：定期試験(60%) ポートフォリオ・e-ラーニング・VP(40%)

◆全学年を通しての関連ユニット

1年 初年次体験実習 歯科医院見学実習 歯学入門

2年 福祉と健康（福祉施設実習）

3年 ヒトの病気 A チーム医療と口腔医学 I 口腔医学 II（病院病棟における看護業務と全身状態の把握、医療面接の基礎） 口腔医学実習 II（昭和大学附属病院病棟体験実習）

4 学部連携チーム医療 学部連携 PBL

4年 口腔医学 III 全身の医療面接とコミュニケーション ヒトの病気 B

5年 全身疾患と口腔医学 全身管理と医療連携の臨床実習 学部連携病棟実習

6年 学部連携地域医療実習 学部連携アドバンスト病院実習

回	年月日	曜日	時 限	学習項目	学 習 内 容	対象 SBO	担当
1	26.9.30	火	3	歯科診療と全身疾患	本ユニットの目的を理解する。基礎疾患と歯科診療との関連についてeラーニングなどで学ぶ。	1,2,	歯学教育 片岡竜太
2	26.9.30	火	4	チーム医療と口腔内科	チーム医療を行うにあたり、口腔内科的な知識がどのように必要であるかを理解する。	3,4,6	歯学教育 片岡竜太
3-4	26.10.7	火	3- 4	口腔乾燥を訴える患者に 対する医療面接	口腔乾燥を訴える患者の鑑別診断についてeラーニングで学ぶ。口腔乾燥を訴える患者に対して医療面接で聞く内容について、VPやeラーニングで学ぶ。	4,5, 10	口腔病理 美島健二
5	26.10.14	火	3	口腔乾燥症の症状と診断	口腔乾燥症の症状や診断について学ぶ。	6	口腔病理 美島健二
6	26.10.14	火	4	口腔乾燥症に対するケア	口腔乾燥が見られる患者に対する口腔のケアについて学ぶ。	10,11	口腔衛生 弘中祥司
7	26.10.21	火	3	チーム医療における歯科 医師の役割(急性期)	脳梗塞などの疾患に罹患した患者に対して入院中に行うチーム医療の実際について、VPやeラーニングで学ぶ。	7,8,9, 10	口腔衛生 弘中祥司
8	26.10.21	火	4	チーム医療における歯科 医師の役割(回復期)	脳梗塞などの疾患に罹患した患者に対して退院後に行う地域連携医療の実際について、VPやeラーニングで学ぶ。	7,8,9, 10	口腔衛生 弘中祥司

回	年月日	曜日	時 限	学習項目	学 習 内 容	対象 SBO	担当
9, 10	26. 10. 28	火	3- 4	基礎疾患を有する患者・がん化学療法、放射線治療中の患者に対する口腔ケアを学ぶ	D5学部連携病棟実習、地域連携歯科医療実習に備えて、基礎疾患を有する患者・がん化学療法、放射線治療中の患者の口腔内の症状とそれぞれに対応した口腔ケアの実際を学ぶ。 <u>(旗の台5号館5階実習室を使用)</u>	1,2,3, 4,5,6, 7,8,9, 10,11	口腔衛生 弘中祥司